

グループワーク向け教室「ミライズ」

九州工業大情報工学部(飯塚市)に、グループワーク向けに設けられた教室「MILAYS(ミライズ)」がある。四方の壁面に八つのスクリーンがあり、従来の教室と違って教壇はない。可動式の机やイスを使うため、前方、後方にとられない柔軟な授業が可能だ。開設8年目を迎え、学生のプレゼンテーション能力が向上しているほか、約80の企業や団体が視察に訪れ、一部企業がこの教室の仕組みを取り入れるなど注目を集めている。(中川次郎)

自ら考え学ぶ空間

8月上旬にミライズで行われた「ハイオ技術者倫理」の授業。学生

たちは数人ずつ16のグループに分かれ、班ごとにまとめた企業の経営や倫理などに関する資料をスクリーンに映しながら、プレゼンを実施。全ての発表が終わると、各班で話し合い、最も優れたグループ名をホワイトボードに書き込んだ。

この科目を担当する安永卓生教授(53)は「室内を自由に動けるため、学生からの質問が増えた。学生同士のディスカッションも活発となり、自分の考えを相手に伝える能力が確

実が上がっている」と話す。

ミライズは、学生が自ら考え、議論を通じて深く学び合う「アクティブラーニング」を推進しようと、2011年4月に開設された。名称には「新しい学習の『未来図』」の意味が込められている。教室の面積は260平方メートルで、収容人数は90人。17年度の後期は「機械情報プロジェクトI」や「知能情報工学実験演習III」など、合計20科目の授業で使われた。授業がないときは、自習スペースとして利用されている。

ミライズは、機器の管理や更新も学生スタッフが中心となって担うのも特徴の一つ。学生スタッフは、授業内容に合わせて150台のノートパソコンや60台のタブレット端末をどのように使うかを考え、設定する。元スタッフの会社員、石田竹至さん(25)は「京都府は『授業をサポートするためには、担当教授と話しながら、自ら考えて行動しないといけない。考えることと相手に説明する能力は職場でも生かされている」と語る。

グループワークに適した環境に関心を持つ企業は多く、トヨタ自動車九州(宮若市)は16年3月に完成したテクニカルセンターに、ミライズを参考にしたスペースを設置。学生と地元企業、住民の交流の場として10月にオープンする「つなぐカフェ

九工大内に開設8年目 教壇なく四方にスクリーン

プレゼン能力向上 企業も注目

①飯塚(飯塚市)も、学生スタッフのノウハウを取り入れる方針だ。ミライズを担当する近藤秀樹助教(43)は「施設が立派でも、うまく活用できないと意味がない。これまでの取り組みを着実に進め、大学の内外に向けてさらに情報を発信していきたい」としている。

学生スタッフの運営を高く評価

学習空間研究の専門家

世界各国の学習空間について研究しているパリテジナル大学共同創設者兼プロジェクト・ディレクターのジョン・オージェリ氏は、これまでに3回、ミライズを視察し、設備面や学生スタッフを中心とした運営を



ミライズを視察するジョン・オージェリ氏(左)と、施設を説明する近藤秀樹助教

評価している。

西日本新聞の取材に対し、ジョン氏は「ミライズは世界の中でも最も優れたアクティブラーニング教室の一つだが、設備面だけのことではない」と指摘。各地の教室では高度な設備を十分に活用できていないケースが多いとして、「近藤(秀樹)氏とスタッフによるサポートこそが、設備を最大限に活用した革新的な教育と学習の鍵となっている」と強調した。

四方の壁にスクリーンが設置された部屋で、可動式の机といすで授業を行う「ミライズ」

